

令和8年度 新宿区立牛込第二中学校 学校経営方針

1 教育目標

人間尊重の精神を基盤として、知性、感性及び道徳性に富み生涯を通して主体的に学ぶ生徒の育成を願って

- ◎自ら学び、考え、行動する人
- ◎思いやりと責任感のある人
- ◎健康で心豊かな人

2 目指す生徒像

- 目標をもち、向上心を忘れず、主体的に学び続ける生徒（確かな学力）
- 相手を尊重し、感謝の気持ちを忘れず、最後まで責任をもってやり遂げる生徒（豊かな心）
- 進んで心身を鍛え、たくましく生き抜く力を身に付ける生徒（健やかな身体）

3 目指す学校像

- 安心安全で、厳しさの中にも心温まる活気に満ちあふれた学校
- 個に応じて能力を伸ばし、感動を与え、自信と誇りをもたせる学校
- 保護者・地域との連携を深め、信頼に応える学校

4 目指す教職員像

- 「チーム牛二中」の一員として協働できる教職員
- 使命感をもち、専門性の向上に努める教職員
- 相手を尊重し、生徒・保護者・地域から信頼される教職員

5 目指す授業像

- 生徒の問いと意欲を引き出し、自ら学ぼうとする生徒を育成する授業
- 試行・考察・共有・改善の流れが組み込まれている授業
- 生徒一人ひとりの理解度に応じたきめ細やかな指導を行う授業

6 学校経営の基本方針

- 生徒の「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」をバランスよく育成する。
- 安全で安心して学べる環境を確保し、生徒・保護者・地域から信頼される学校をつくる。
- 観察・状況判断・意思決定・実行のサイクルを確実にいき、組織的に学校を運営していく。

7 令和8年度 重点取組

『誰一人取り残さない温かい牛二 (COW)²』

- | | |
|---------------|------------------------------|
| ①生徒の主体性の伸長 | ●自ら考え行動する生徒を育て、自信を深めさせる教育活動 |
| ②生徒主体の授業の提供 | ●「教える」から「学ぶ」へ、生徒が主語になる授業への転換 |
| ③人を大切にする学校づくり | ●言葉、呼称、接遇など、隅々まで配慮した人権感覚の醸成 |
| ④安心・安全な学校づくり | ●生徒が安心して過ごせる教育環境の実現 |
| ⑤柔軟な学校づくり | ●多様な生徒に対する「指導」と「支援」の在り方 |
| ⑥複数体制による教育活動 | ●学年の枠を超え生徒一人ひとりを見守る体制 |

8 学校経営の基本方針に対する具体策

◎生徒の「確かな学力・豊かな心・健やかな身体」をバランスよく育成する。

- ①「教える」から「学ぶ」へ。「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視。一斉授業から、生徒自身が学ぶ授業への根本的転換
- 全教科の授業を、生徒自らが学ぶ授業に、意識的に転換する。
 - 授業のプロセスを以下の3段階とし、実践的に取り組む。
 - (1) ガイド（生徒が課題を把握したり、学習の計画を立てたりする）
 - (2) 探究（課題について個人で取り組んだり、協働的に取り組んだりする）
 - (3) まとめ・振り返り（発表したり、評価し合ったり、身に付いた力を言語化したりする）
 - 全授業でICTを活用し、学習の効率化を図る。
 - 読書活動を推進し、読解力を高めたり、読書に親しんだりする姿勢を育成する。
 - 体験学習を充実させ、豊かな人間性や価値観の形成及び課題発見や解決能力の育成を図る。
 - キャリア教育により自己理解を深めさせ、主体的に進路を選択・判断できる能力を育成する。
 - 定期考査や新宿区学力定着度調査等及び学期ごとの授業アンケートの結果を分析し、授業改善と教育活動の検証に取り組む。
 - ボランティア等を活用した放課後学習支援を計画的に実施し、基礎学力の向上を図る。
 - 新宿区教育ビジョンに即し、漢検・数検・英検などに積極的に取り組ませ、生徒の学習へのモチベーションを高める。
 - 生徒の努力（成果物）と生徒の変容（到達目標の提示と解決の手立てなど）をもとに評価し、指導と評価の一体化を図る（通知表によって、生徒に「やる気」と「新たな目標」をもたせる）。
- ②豊かな心を育てるために
- 全ての教育活動において、人を大切にする心の育成を徹底し、お互いを尊重し合う温かい学校づくりを目指す。
 - 言葉・呼称・接遇など、隅々まで配慮した人権感覚を醸成する。
 - 特別の教科「道徳」を充実させ、考え、議論する授業を実施し、生徒の心を育てる。

- 「あ（挨拶）・じ（時間厳守）・み（身だしなみ）・こ（言葉遣い）・し（姿勢）」を意識した生活態度の育成を図る。
- 生徒会活動、学級での係活動、部活動など、協働作業において自治的活動の推進を図り、生徒の主体性の伸長を図るとともに、生徒が自他を認め、お互いに成長し合える環境づくりに努める。
- 「あいさつ運動」「ありがとう運動」を推進し、学校生活を通して、生徒の社会性や感謝する心の育成を図る。
- 特別支援コーディネーターを中心とした組織的な支援体制を充実させるとともに、「まなびの教室」を積極的に活用し特別支援教育の推進を図る。
- 多様な生徒の実態に即して「指導」と「支援」を使い分け、柔軟な学びを心掛ける。

③健やかな身体を育てるために

- 全ての教職員で感染症対策やけがの未然防止に努め、安心・安全な教育活動を実践する。
- 保健体育科の授業を男女共修とし、運動の日常化を推進し体力の向上を図る。
- スピードアップアカデミーを活用し運動への関心を高め、体力向上及び障害者スポーツ体験を推進し、スポーツに親しむことと障害者理解教育の充実を図る。
- 給食指導、家庭科の授業等を通して、バランスのとれた食習慣を身に付けさせる「食育」を推進する。
- 学校安全指導計画に基づいた「安全教育」の充実を図る。

◎安全で安心して学べる環境を確保し、生徒・保護者・地域から信頼される学校をつくる。

①当面する教育課題への対応

- 「牛込二中はいじめを許さない」という共通認識のもと、いじめの未然防止に努めるとともに、いじめが発生した場合は「いじめ対策委員会」を中心とした学校組織で対応する。
- 第1学年では、中学生と地域が連携した防災訓練を、第2学年では、サイバー犯罪を、第3学年では薬物をテーマにした学習の場を設け、計画的にセーフティー教育の充実を図る。
- 第1学年では、情報モラル教育出前講座を活用し、ネット社会における適切な対応の在り方について学習を深める。
- ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）にかかわる課題、薬物乱用防止等、最新の状況を踏まえた適切な指導を適宜行っていく。
- 不登校対策に学校組織として取り組み、全ての生徒が社会とつながっている状態を維持する。

②地域協働学校としての取り組み<地域が参画する学校運営>

- 地域協働学校として、学校運営や学校評価、学校支援活動についての協議を通し地域・保護者の参画を促し、地域に根ざした教育活動の充実を進める。
- 学校運営連絡協議会で、学校運営上の課題を共有し、改善に向けた具体的な取組を推進する。

③信頼を高めるための取り組み

- 危機管理への対応として、主に次の5点を掲げる。

- ・校内における「ほう（報告）・れん（連絡）・そう（相談）」を徹底する。
- ・問題行動には、迅速かつ組織的な対応を徹底する。
- ・食物アレルギー等、管理及びチェック体制を遵守し、確認を徹底する。
- ・生徒の健康管理、教材費の会計処理等、適切に実施し保護者との信頼関係の構築に努める。
- ・学校から保護者・地域等へ積極的に情報を発信し、適切な学校運営（法令遵守）を果たす。
- 教職員の服務規律の遵守について、主に次の
 - ・体罰、セクハラ、飲酒運転、個人情報の流出、その他信用失墜行為を厳に戒め、保護者や地域住民からの信頼を損なわないように留意する。
- 教育環境の整備・充実
 - ・学校全体で適切な言語環境を整え、教職員が自ら模範を示すよう言動を徹底する。
 - ・掲示物等については、ユニバーサルデザインを取り入れ、生徒の集中力を高め、人権保護や多様性を尊重する視点に配慮する。
- 学校として必要な情報の収集と適時性のある情報の発信
 - ・学校の教育活動を円滑に進めるための情報収集と適時性のある情報発信を行い、学校の教育活動への安心感と信頼感を獲得する。
- 接遇の改善
 - ・保護者や地域の方など、学校に寄せる気持ちを真摯に受け止め、誠実・丁寧な対応を行な生徒の充実した教育活動には、教職員の健康が不可欠である。

◎ OODA（観察・状況判断・意思決定・実行）をもとに、全教職員で組織的に学校を運営していく。

①観察・状況判断・意思決定・実行のサイクルを確実に行うために

- 起こった事象や予想される事象について、複数の目で確実に見取り、適切な状況判断を迅速に行い、段階に応じた意思決定のプロセスを経たうえで、組織的に実行することを意識する。
- 慣例や思い込みにとらわれず、組織的に学校を運営していくことを意識する。

①全教職員で組織的に学校を運営するために

- 提案・実践が主体的に行われるよう「情報の共有」を意識した組織運営を行う。
- 教職員が協力し、切磋磨き、個々の資質向上を図り、より良い教育活動の実践に結び付ける。
- 年間 12 回の校内研修を活用し、授業改善や生徒理解、喫緊の教育課題などについて組織的に研鑽を行う。

③誇りのもてる牛二中の教育の創造

- 年 2 回の学校評価を活用し、課題と成果及びその変容の共有を図る。また、学校関係者の学校への主体的な関わりを促し、教育活動の改善に取り組んでいく。

④チームとしての生徒指導

- 生徒理解と信頼関係による指導
 - ・生徒一人ひとりを大切にする姿勢をもち、共通理解と共通実践を基本に生徒指導にあたる。
 - ・日々の活動、実践を通して、信頼関係を構築することを大切にする。

- ・生徒の課題のみならず、成果等の変容についても保護者へ伝え、家庭との連携・協力のもとに指導にあたる。
- ・「hyper-QU」を活用し、生徒理解を深め、学級経営、学年経営の一層の充実を図る。
- 生徒が取り組む過程を評価
 - ・生徒には、結果だけにとらわれることなく過程も大切にし、時には失敗したことから学ばせ、次の機会に活かせるように指導する。
 - ・プロセスを適切に評価する。生徒の創意工夫や継続的な取り組みなどを大切にする。
- 自信と自覚を深める指導生徒が取り組む過程を評価
 - ・生徒に困難を乗り越えること、課題を克服していくことで自信と自覚を深めさせる。
- 義務教育最後の3年間を担当するという使命感をもった取り組み
 - ・一社会人として、卒業する生徒が身に付けるべき資質とは何かを考え、各教科や教育活動を通して、人を育てることの使命感をもって指導にあたる。
 - ・小学校との連携を図り、義務教育9年間を見据え、スムーズな移行を心掛けた教育活動を提供する。